

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 19 回さがみはら森林ビジョン審議会				
事務局 (担当課)		環境経済局経済部津久井地域経済課 電話 0 4 2 - 7 8 0 - 1 4 0 1 (直通)				
開催日時		令和元年 7 月 2 4 日 (水) 午後 2 時 ~ 5 時				
開催場所		相模原市役所 職員会館 第 1 会議室				
出席者	委員	6 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	6 人 (経済部長、津久井地域経済課長、津久井地域経済課 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 平成 3 0 年さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について (2) その他 4 その他 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

事務局（津久井地域経済課）から開会宣言が行われ、会議の成立について報告するとともに、議事録の公開について説明し、了承を得た。

2 あいさつ

事務局の進行により、経済部長からあいさつを行った。

3 議事

審議に先立ち、会長から事務局に傍聴希望者の有無が確認され、傍聴希望者がなかったため、会長の進行により審議が開始された。

(1) 平成 3 0 年度さがみはら森林ビジョン実施計画事業の進行管理について

ア 進行管理の方法について

事務局から、進行管理の方法、スケジュール等について、資料 1 に基づき説明し、質疑なく承認された。

イ 進行管理対象事業について

事務局から進行管理対象事業について、資料 2 に基づき、基本方針、基本施策、主な取組み事項とそれを構成する 5 0 の対象事業について説明を行い、質疑なく承認された。

ウ 進行管理について

事務局から資料 3 ～ 5 に基づき、主な取組と実績、自己評価等について説明を行った後、質疑応答及び事業に対する審議が行われた。

【「重点事項：その 1」に係る審議会からの意見、質疑応答などの概要】

事務局から資料 3 に基づき、重点事項のうち毎年度目標を設定して取組を行っている「重点事項その 1」の 6 事業について、主な取組と実績、自己評価等について説明を行った後、質疑応答及び審議が行われた。

事業コード 3-1-1 「(仮称)相模原市市民の森」整備事業

3 回予定していた森林体験イベントのうち、1 回のみ開催となっている。事業所管課が自己評価を「A」としている理由は、

指標はあくまでも森林体験イベントの検討および試行であり、中止になったイベントについても原因を分析し、次に生かすことができたと考えているため。

中止となった理由は。

6月のイベントについては近隣のレジャー施設の宿泊客をターゲットにしたが、梅雨入りと重なったことや、ニーズと合致せず、申込者数に満たなかった。9月のイベントについては、台風のため中止とした。

レジャー施設との共同開催に至った理由は。

市民の森のテーマを「多様な主体で育む交流発展型市民の森の創出」としているため、近隣企業と連携した取組を企画した。

進行管理シートに「企業や団体との連携を試みるため」等記載を追加されたい。審議会からの評価は「A」とする。

事業コード 3-3-1 企業の森の拡大

企業へのヒアリングの結果は。また、スケジュールについて聞きたい。

ヒアリングを実施した13社中6社について、条件次第での参加意向が示されている。今年度は、市独自の制度について庁内合意を図り、来年度から、制度を開始させたいと考えている。

企業側の参加のメリットは何か。

直接的には登山道への看板の設置だが、市への寄付による企業CSRがメリットであると考えている。

昨年からの進捗を明確にするため、進行管理シートに今後のスケジュールや制度化を進めている旨を記載されたい。評価は「B」とする。

事業コード 4-1-1 津久井産材素材生産量の拡大

素材生産量は昨年から減少しているが、目標は達成しており、評価できる。今後県の水源環境保全税が打ち切られた場合、大幅に減少すると考える。

県が整備してきた水源協定林の返還後は木材生産のできない環境林となる。津久井地域の水源協定林が経済林となれば、良質な木材を搬出し、生産量の向上につながる森林となるため、県へ要望を行うことで県央地域の担当部署と協議している。

当面は、生産量の水準の維持に努められたい。評価は「A」とする。

事業コード 5-1-1 水源の森林づくり事業

森林の整備に向けて取り組まれているが、目標の達成には至っていない。制度的な限界がきているのか。

森林所有者からの要望が少なく、新規の整備面積の確保が難しいという現状がある。

整備の要望があっても、すぐにできない場合がある。予算を増やすことで、面積の確保につながるのでは。

県への予算要望が前年の秋ごろに締め切りとなるため、その後の要望については、次年度以降に調整されることがある。

評価は「B」とし、引き続き整備に向けて取り組まれない。

事業コード5-1-1 地域水源林整備事業

私有林整備の要望をどのように伸ばしていくかが課題となっている。

地域水源林エリアは津久井の一部と、城山地域であり、市の広報等で整備の周知に努めてきたが、実施には至らなかった。

地域水源林エリアでは、竹林整備が課題となっている。竹林については、県の補助がなく、整備が困難になっている。

森林環境譲与税を活用し、従来は整備が困難であった森林等に対応していきたい。

私有林整備については、努力を続けてもらいたい。評価は「B」とする。

事業コード5-1-1 地域水源林保全・再生事業

目標に向けて着実に取り組まれている。引き続き水源環境の保全・再生に向けた取組を行ってもらいたい。評価は「A」とする。

【「重点事項：その2」に係る審議会からの意見、質疑応答などの概要】

続いて、事務局から資料4に基づき、「重点事項その2」の6事業について、主な取組と実績、自己評価等について説明を行った後、質疑応答及び審議が行われた。

事業コード3-3-1 市民協働推進事業（森林活用モデル検討事業）

実績を積み重ねられており、今後も引き続き推進されたい。

事業コード4-1-1 津久井産材利用拡大協議会の設置・運営支援

津久井産材産地証明制度について、取組が停滞していると考えられる。かながわ県産木材の場合は、会費制により活性化の費用としている。

エンドユーザーが津久井産材使用の意向を示さないと、津久井産材は市場でかながわ県産材として取り扱われる。津久井産材を使用するインセンティブがあるとよい。

持続的な制度運用のためには、神奈川県森林組合連合会への委託や、会費制なども考えられる。また、森林環境譲与税を活用した工務店への支援を考えている。方策については、津久井産材利用拡大協議会と連携し検討していきたい。

津久井産材利用拡大協議会では、課題や問題点の抽出を行った上で取り組まれない。

事業コード 4-1-2 公共建築物等への利用促進

津久井産材を使用した公共施設は、市民の目に触れるよい機会であり、評価できる。引き続き取り組まれない。

事業コード 4-1-3 地産地消の促進

産地証明制度による事業の推進は評価できる。今後は利用拡大につながるような制度の活用方策などの検討に期待する。

地域型住宅グリーン化事業の採択グループになっているが、申請から着工までの期間が短く、実施に結びつかないという現状がある。

木材の利用拡大や木育の取組として、市内の新生児を対象に木製のおもちゃのプレゼント等を検討してもらいたい。

今後の取組として検討する。

事業コード 4-1-4 再生可能エネルギーの利用促進

「低質材の取扱等について、情報交換を行った」とあるが、具体的には。

C材は神奈川県森連津久井貯木場への搬入ではなく、事業者が直接大月バイオマス施設へ持ち込むことについて確認した。

1tあたり5,000円で大月へ持ち込むこととなっているが、運搬費等がかさむため、採算がとれない。11月からは、横須賀バイオマスへ搬入する動きがあるが、詳細は決まっていない。

引き続き、情報交換に努めていただきたい。

事業コード 4-1-4 木材の多様な利用のための技術・商品開発の促進

市内におけるバイオマス発電施設は、採算性などの課題から実施は難しいとの結論は承知しているが、コストではなく、利用に重点を置いた発想の転換をすべき時がくるのではないかと。

C材のはけ口がないという課題が生じたときに、再検討していきたい。

【「重点事項以外の取組」に係る審議会からの意見、質疑応答などの概要】

続いて、会長から資料5「重点事項以外の取組」の38事業について、意見等の確認が行われた。

事業コード 2-3-1 津久井産天板交換等委託事業

天板の材料である広葉樹の確保が課題である。

伐採届等が提出される際に、広葉樹提供の呼びかけを始めている。市としても引き続きアピールしていきたい。

事業コード 3-2-2 都市と自然を生かした新しいツーリズムの推進

里地里山体験ツアーは藤野地域にて企業の福利厚生などにも活用されるなど活発である。市の協力についても期待する。

多様な民間の取組について、協力をしていきたい。

事業コード 3-2-2 地域と人つなぐルートづくり

八王子市との連携を図るとしているが、例えば相模原市と八王子市の山で、自転車レースなどが開催できれば、観光やスポーツを通した森林イベントとなる。

八王子市と本市の観光協会及び行政で構成する合同会議があるため、担当課に話をしたい。

(2) その他

ア 森林環境譲与税の活用による各種事業について

事務局から、資料6に基づき説明を行った。

県では、木材利用促進の一環として、工務店が行う普及・PR活動に応じてポイントを付与し、工務店がそれを施業主に配分することで、施業主が木製の家具等と交換できる制度を検討されているとのことだが、市ではどうか。

ポイント制の選択肢とするほど津久井産材製品の種類が充実していないため、現時点では考えていない。

県の森林塾に関して、相模原市民の参加はない。新規就労者向けに林業の説明会ができるとうい。また、若い世代への引継ぎをしたいと考える。目に触れる機会が増えるとよい。

積極的に支援をしていきたい。

若年層の離職率が高いため、就業前のインターンや就業後の相談の場など、支援があるとよい。

市で相談員を雇用することも考えられる。

検討したい。

4 その他

次回日程については、10月中旬から11月上旬を予定することとした。

5 閉会

さがみはら森林ビジョン審議会 出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	北村 美仁	一般社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
2	齊藤 理沙	公募委員		出席
3	佐藤 治男	津久井郡森林組合 代表理事組合長	副会長	出席
4	杉本 貴広	有限会社 杉本林業 取締役		出席
5	土屋 俊幸	東京農工大学 大学院 農学研究院 教授	会長	出席
6	淵上 美紀子	一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 代表理事		出席